

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number: 08221476

(43)Date of publication of application: 30.08.1996

(51)Int.Cl.

G06F 17/60

(21)Application number: 07025174

(71)Applicant:

TOSHIBA CORP

(22)Date of filing: 14.02.1995

(72)Inventor:

KOBAYASHI HITOSHI

(54) WORK FLOW SYSTEM

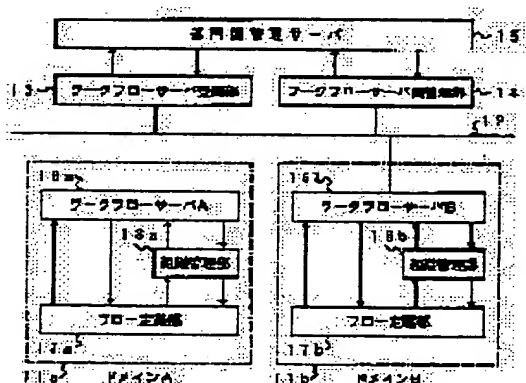
(57)Abstract:

PURPOSE: To efficiently perform the tasks in each domain by retrieving its own organization management part through each work flow server based on the organization information included in the folder information and then generating and carrying out the flow of the corresponding organization.

CONSTITUTION: The work flow servers 16a and 16b of respective domains detect the organizations while executing the flows generated in their own domains and then read the domains including the detected organizations out of a work flow server register part 13. Then, both servers send the folder information including the information on the corresponding organizations added to the folder of the present execution step to the work flow servers 16a and 16b of the domains including the read organizations.

Upon receiving the folder information, both servers 16a and 16b retrieve their own organization

management parts 18a and 18b based on the organization information included in the



received folder information and generate the flows of the organization. When the execution of these flows are finished, the folder information including the folders obtained by the execution of the flows are sent to the servers 16a and 16b of another domain of the transmitter side.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998 Japanese Patent Office

[MENU](#)

[SEARCH](#)

[INDEX](#)

[DETAIL](#)

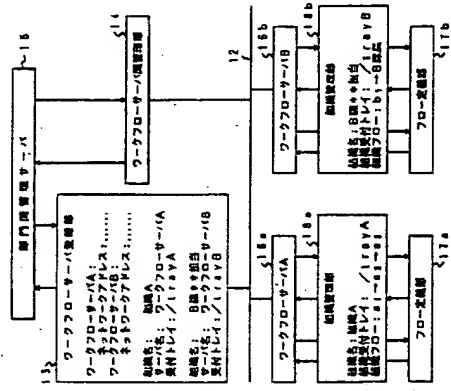
(19) 日本国特許庁 (J P) (12) 公開特許公報 (A) (11) 特許公開公報番号
特開平 8-221476
(43) 公開日 平成 8 年 (1996) 8 月 30 日

(51) Int. Cl.⁶ G 0 6 F 17/60 識別記号 戸内整理番号 F I G 0 6 F 15/21 技術分野 L
(54) 発明の名称 ワークフローシステム

(21) 出願番号 特開平 7-25174 (71) 出願人 000003078
株式会社東芝
神奈川県川崎市幸区堀川町 72 番地
(72) 発明者 小林 仁志
東京都府中市東芝町 1 番地 株式会社東芝
府中工場内
(74) 代理人 弁護士 錦江 武彦
審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 12 頁)

(54) 発明の名称 ワークフローシステム

(57) 【要約】
【目的】 一つの仕事を複数のワークポイントに分割して実行する場合に、他のドメインのワークポイントに対しても簡単に仕事を割り付け可能にする。
【構成】 各ドメインは、他のドメインに対して公開した組織のフローを記憶する組織管理部を設け、かつワークフローサーバを記憶する各ワークフローサーバの指定情報と組織の情報を記憶している。そして、各ワークフローサーバは、フローの実行過程で組織を検出すると、該当組織の所属ドメインをワークフローサーバ登録部から検出して、実行段階のフォルダに該当組織の情報を付したフォルダ情報を識別した所属ドメインのワークフローサーバへ返信する。フォルダ情報を受信したワークフローサーバは、該当フォルダ情報に含まれる組織の情報をを用いて自己の組織管理部を検索して該当組織のフローを生成して実行し、実行結果のフォルダを返信元のワークフローサーバへ返信する。



【0008】このように各ワーケーションサーバa, 4は自己ドメイン1, 1b内におけるフロー5を構成する各ワーケーション2a, 2bの実行管理及びフローの各実行段階におけるフォルダ管理を行う。

【0009】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、図15に示すワーケーションシステムにおいてもまだ解消すべき次のような課題があった。すなわち、各ドメイン1a, 1bのワーケーションサーバa, 4bが管理している各ワーケーション2a, 2bは自己が所属するドメイン1a, 1bに属したワーケーション2a, 2bのみであるので、他のドメイン1b, 1aのワーケーション2a, 2bを含む出社のフローを構成することができなかった。

【0010】このような本発明を解消するためには、図15に示す2つのドメイン1a, 1bを1つのドメインに統合して、一つのワーケーションサーバで全ての仕事及び全てのワーケーション2a, 2bを管理することがあえられるが、一つ全ての仕事のフローの実行管理を行うと、処理量が増大し、処理待ちのフローが多くなり、やはりシステム全体としての処理能力が低下する。

【0011】本発明はこのような事情に鑑みてなされたものであり、たとえ自己ドメインで発生した仕事の一部に他ドメインで実行させる仕事と関連したフローを作成したとしても、各ドメインにおいて能率的に仕事のフローを実行でき、各システムで扱う仕事の種類や規模が大幅に拡張でき、かつ能率的に各仕事を実行できるワーケーションシステムを提供することを目的とする。

【0012】また、自己ドメインから送付された他のドメインで実行のフローであってもこのフローの進捗状況をリアルタイムに把握できるワーケーションシステムを提供することを目的とする。

【0013】さらに、上記各目的に加えて、異常発生時においてもできるだけ正常にフローが実行でき、信頼性を向上できるワーケーションシステムを提供することを目的とする。

【0014】

【課題を解決するための手段】本発明は、各ドメインに所属する各ワーケーションを登録し、各ドメインで発生した各仕事を複数のワーケーションに分割し、かつ各ワーケーションの実行順序をフローで定義して、各ドメイン間に送付された各ワーケーションサーバにて各フローの実行管理及び各実行段階のフォルダ管理を行うワーケーションシステムに適用される。

【0015】そして、上記課題を解消するために本発明の請求項1においては、各ドメイン内に送付され、各ドメインが他のドメインに対して公開した自己ドメインに所属する各ワーケーションで構成された組織のフローを監視する組織管理部と、各組織の所属ドメインを含む複数の組織情報及び各ドメインのワーケーションサーバを指

定する指定情報とを記憶するワーケーションサーバ登録部と、各ワーケーションサーバに送付され、自己ドメインで生じたフローの実行過程で組織を越え、該当組織の所属ドメインをワーケーションサーバ登録部から送付したフォルダ情報を越え、当該組織の所属ドメインに該当組織の情報を付したフォルダ情報を送付したフォルダ位置追跡手段と、各ワーケーションサーバに送付するフォルダ情報送信手段と、各ワーケーションサーバに送付され、前記フォルダ情報を受領すると、該当フォルダ情報に含まれる組織の情報をを用いて自己の組織管理部を検索して該当組織のフローを生成して実行する組織フロー生成実行手段と、フローの実行終了段階のフォルダを含むフォルダ情報を送付元のワーケーションサーバへ返信するフォルダ情報送信手段とを備えたものである。

【0016】請求項2においては、請求項1のワーケーションシステムに対して、フォルダ情報を受領したワーケーションサーバにて受領したフォルダ情報が送まれるワーケーションサーバ側管理部と、各ワーケーションサーバに送付され、フォルダ情報の送付後に入力したフォルダ位置追跡情報に反映して、ワーケーションサーバ側管理部を介してフォルダ位置を越え、ワーケーションサーバから現在のフォルダ位置を越え、ワーケーションサーバ位置追跡手段とを付加している。

【0017】さらに、請求項3の発明においては、請求項1のワーケーションシステムに対して、各ワーケーションサーバに送付され、ワーケーションサーバ登録部の同一記憶内容を記憶保持するバックアップ用メモリと、ワーケーションサーバ登録部の異常時にバックアップ用メモリの内容に基いてフォルダ情報の送付先ワーケーションサーバを特定する送付バックアップ手段とを付加している。

【0018】

【発明】このように構成されたワーケーションシステムにおいては、各ドメインの組織管理部には自己ドメインが他のドメインに対して公開した自己ドメインに所属する各ワーケーションで構成された組織のフローが記憶されている。

【0019】さらに、ワーケーションサーバ登録部には各ドメインの組織管理部に登録された各組織の所属ドメインを含む複数の組織情報及び各ドメインのワーケーションサーバを指定する指定情報が記憶されている。

【0020】このような構成において、操作者は同一ドメインに所属するワーケーションのみで構成される通常のフローと、同一ドメインに所属するワーケーションのみならず組織管理部に登録された他のドメインに公開された組織を越え、当該組織のフローを作成することができる。

【0021】そして、各ドメインのワーケーションサーバは、自己ドメインで生じたフローの実行過程で組織を越え、出ると、組織の所属ドメインをワーケーションサーバ

登録部から送付し、現実行段階のフォルダに該当組織の情報を付したフォルダ情報を送付した組織の所属ドメインのワーケーションサーバへ送信する。

【0022】このフォルダ情報を受領した前記組織の所属ドメインのワーケーションサーバは、該当フォルダ情報に含まれる組織の情報をを用いて自己の組織管理部を検索して該当組織のフローを生成する。すなわち、自己の組織管理部には自己が他のドメインに対して開放した組織のフローが記憶されているので、容易に該当組織のフローを再生できる。そして、再生したフローには自己ドメインに所属するワーケーションのみが含まれないので、この再生した自己の組織のフローを容易に実施できる。

【0023】このフローに対する実行が終了すると、フロー実行により得られるフォルダを含むフォルダ情報を送付元の他方のドメインのワーケーションサーバへ返信する。この場合の返信先のドメイン及びワーケーションサーバの特定情報はフォルダに付加された組織送付用ファイルから得ることが可能である。

【0024】このフォルダ情報を受領した送付元（返信先）のワーケーションサーバにおいては、最初に入力したフローにおける組織の次のワーケーションへ受領したフォルダを送信して、該当ワーケーションからフローの実行管理及びフォルダ管理を再開すればよい。

【0025】このように、各ドメインに共通する各機能の情報及び各ドメインのワーケーションを指定する指定情報を記憶するワーケーションサーバ登録部を設けることにより、各ドメインのワーケーションサーバにおいて、自己ドメインに所属するワーケーションのみならず、他のドメインのワーケーションで構成される組織を越え、出ることができる。

【0026】また、請求項2の発明においては、ワーケーションサーバ側管理部には、ワーケーションサーバで受領した組織情報が付加されたフォルダ情報が送まれる。したがって、フローが入力されたワーケーションサーバに対して、このフローの進捗状況を越え、移行した状態において、フォルダの現在位置を越え、移動するためのフォルダ位置追跡命令が入力されると、このワーケーションサーバは、ワーケーションサーバ側管理部を介してフォルダ情報送信先のワーケーションサーバから組織のフローと現在のフォルダ位置を越え、出ることが可能となる。

【0027】さらに、請求項3の発明においては、各ワーケーションサーバに対して、ワーケーションサーバ登録部の同一記憶内容を記憶保持するバックアップ用メモリが設けられている。ワーケーションサーバ登録部は、前述したように、各ドメインの組織管理部に登録された各組織の所属ドメインを含む複数の組織情報及び各ドメインのワーケーションサーバを指定する指定情報が記憶されている。

【0028】したがって、たとえ何等かの要因により、

ワーケーションサーバ登録部に異常が発生したとしても、バックアップ用メモリの記憶内容に基いてフォルダ情報の送付先ワーケーションサーバを指定可能である。よって、正常に他のドメインのワーケーションサーバにて組織のフローを実施できる。

【0029】

【実施例】以下本発明の一実施例を図面を用いて説明する。図1は実施例のワーケーションシステムの概略構成を示すブロック図である。この実施例ワーケーションシステムにおいては、ドメインAとドメインBとの2つのドメイン1a, 1bが例えばLAN等のネットワーク12を介して相互に接続されている。各ドメイン1a, 1bは、企業や官庁における課又は部の一つの組織を意味する。

【0030】さらにネットワーク12にはワーケーションサーバ登録部13とワーケーションサーバ側管理部14とが接続されている。ワーケーションサーバ登録部13及びワーケーションサーバ側管理部14には部門間管理サーバ15が接続されている。部門間管理サーバ15は、ワーケーションサーバ登録部13とワーケーションサーバ側管理部14の記憶内容に基いてドメイン1a, 1b相互間における情報交換を管理する。

【0031】また、ドメイン1a, 1b内には、自己のドメイン1a, 1bに所属する各ワーケーション2a, 2b及び各利用者の管理と、入力されたフローの実行管理及びフローの各実行段階で得られるフォルダの管理を行うワーケーションサーバ16a, 16bと、操作者が仕事のフローを作成するためのフロー定義されたフローのうち、自己ドメイン1a, 1bで定義されたフローのうち、自己ドメイン1a, 1bが他のドメイン1b, 1aに対して公開する「組織」のフローを記憶する組織管理部18a, 18bとが設けられている。この場合、「組織」とは課又は部等のドメイン内のワーケーションで構成された1単位を示す。

【0032】ドメイン1aのフロー定義部17aには、例えば図2で示す自己ドメイン1aに所属する各ワーケーション2a（WP1, WP2, WP3）のみで構成される一般のフロー19が入力される。なお、各ワーケーション2aにはそれぞれ利用者a1, a2, a3が割り当てられた状態で入力される。

【0033】ワーケーションサーバ16a内には、図3に示すように、フロー定義部17aで定義された一般のフロー19に関するフロー定義テーブル20aが形成されている。さらにこのフロー定義テーブル20a内には、該当フロー19を構成する各ワーケーション2a（WP1, WP2, WP3）に対して割付けられた各利用者a1, a2, a3を記憶するワーケーション利用者テーブル21a、及び該当フロー19における各ワーケーション2a（WP1, WP2, WP3）の実行順序を記憶するワーケーション順序関係テーブル22aが形成されて

いる。

【0034】さらに、ワークフローサーバ16 a内には、現在実行中のフローにおけるフォルダの名称、ID (識別コード)、表題等を記憶するフォルダ情報テーブル23 a、フォルダに収納されている成果物等を記憶するフォルダメモリ24 a、及び所属ドメイン11 aに登録された各利用者a1、a2、a3、…を記憶する利用者テーブル25 aが形成されている。

【0035】実施例システムにおいては、一つの課で構成された組織Aのドメイン11 aにおいては、図5 (a) に示すように、利用者テーブル25 aに、A課長の他に、3人の利用者a1、a2、a3が登録されている。

【0036】なお、他方のドメイン11 bのワークフローサーバ16 bにおいても、ワークポイント利用者テーブル21 bとワークポイント順序関係テーブル22 bとからなるフロー定義テーブル20 bの他に、フォルダ情報テーブル23 b、フォルダメモリ24 b及び利用者テーブル25 bが形成されている。

【0037】この実施例システムにおいては、組織Bのドメイン11 bにおいては、図5 (b) に示すように、利用者テーブル25 bに、B課長の他に、4人の利用者b1、b2、b3、b4が登録されている。

【0038】各ワークフローサーバ16 a、16 bにおける各組織管理部18 a、18 bは、図4に示すように、操作者が各フロー定義部17 a、17 bにおいて定義した組織A、組織Bのフロー及びその組織情報を記憶する。具体的には、組織名、作成されたフォルダを収納されるディレクトリを示す組織受付トレイ、及び組織のフローを登録される。

【0039】この実施例システムにおいては、ドメイン11 aの組織Aにおいては、組織の名称は「組織A」であり、組織のフローは利用者の順序で示して「a1→a2→a3」である。ドメイン11 bの組織Bにおいては、組織の名称は「B課**担当」であり、組織のフローは利用者の順序で示して「b1→B課長」である。【0040】また、各ドメイン11 a、11 bの各ワークフローサーバ16 a、16 bが自由にアクセス可能なワークサーバ登録部13内には、図4に示すように、フォルダ情報を返送する場合には各ワークフローサーバ16 a、16 bのネット12上のアドレスが予め登録されている。さらに、このワークサーバ登録部13内には、各組織管理部18 a、18 bに登録された組織A、組織Bを特定する各組織名、各所属ワークサーバ名、及び各受付トレイ等の組織情報が登録される。

【0041】また、同じく各ドメイン11 a、11 bの各ワークフローサーバ16 a、16 bが自由にアクセス可能なワークサーバ間管理部14内には、現在実行中のドメイン11 a、11 bに跨る組織を含む図6に示すフロー26が実行中であり、かつ組織のフロー28が実行

中である場合における元のフロー26の各情報が一時記憶される。具体的には、図1及び図12に示すように、組織のフローの実行中のワークフローサーバ16 a、16 bに返送される、フォルダメモリ24 a、24 bに設定された組織送付用ファイル29 a、29 bの記憶内容が設定される。

【0042】そして、この組織送付用ファイル29 a、29 b内には、送付元ワークフローサーバ名、フロー名称、返却トレイ (フォルダ情報) が返却された場合、フォルダを受け取るディレクトリ)、受付トレイ (組織のフロー) が正常終了した場合、フォルダ情報を受け取るディレクトリ) 等が記憶される。

【0043】なお、このワークサーバ間管理部14の記憶情報は、フォルダ情報の送付元のワークフローサーバ16 a、16 bがフォルダ情報の送付先のドメイン11 b、11 aにおけるフォルダの現在位置を登録する場合に用いる。

【0044】このように構成されたワークフローシステムにおいて、操作者が予め各フロー定義部17 a、17 bを用いて組織A、組織Bのフロー及び組織情報を入力すると、これらの情報は各組織管理部18 a、18 bに記憶されると共に、その一部が共通のワークフローサーバ登録部13に登録される。

【0045】そして、例えば一方のワークフローサーバ16 aは、フロー定義部17 aから入力されたフローをフロー定義テーブル20 aに登録すると共に、フォルダ情報テーブル23 a及びフォルダメモリ24 aに前述したこのフローに関する各種情報を初期設定する。

【0046】設定した仕事のフローが例えば図2に示す自己ドメイン11 aに所属するワークポイント2 aのみで構成されている一般のフロー19の場合は、図15に示した従来のワークフローシステムにおけるワークフローサーバ4 aと同様に、図3に示したフロー定義テーブル20 aのワークポイント順序関係テーブル22 aに設定した順番に各ワークポイント2 a (WP1、WP2、WP3) を起動すると共に、一つのワークポイント2 a (WP1、WP2、WP3) における処理が終了すると、その時点で得られる成果物を収納したフォルダを次のワークポイント2 a (WP1、WP2、WP3) へ転送させると共に、フォルダメモリ24 aの内容を得られたフォルダに更新する。さらに、フォルダ情報テーブル23 aの現在位置を次のワークポイント2 a (WP1、WP2、WP3) へ更新する。

【0047】また、設定した仕事のフローが例えば図6に示すように自己ドメイン11 aに所属するワークポイント2 aと他のドメイン11 bが公開した組織27を含むフロー26の場合は、図8に示すように、ワークフローサーバ16 aのフロー定義テーブル21 aのワークポイント利用者テーブル21 aにおける3番目のワークポイント利用者テーブル21 aに、この組織の名称「B課**担当」が設定さ

れる。

【0048】この名称「B課**担当」の組織の実際のフロー28は、ドメイン11 bの組織管理部18 bに予め設定されているように、図7に示すように、ドメイン11 bの利用者b1 からB課長へフォルダを返送すること意味する。

【0049】この場合、ワークフローサーバ16 aはワークポイント順序関係テーブル22 aに設定された順序に渡って、フロー26を順次実行していく。そして、ワークポイントWP2に割付けられた利用者a2 からフォルダを送付する直前のフロー定義テーブル20 a、フォルダ情報テーブル23 a及びフォルダメモリ24 aの記憶内容は図9に示す状態となる。フォルダ情報テーブル23 aの現在位置はワークポイントWP2となっており、

【0050】この状態から、利用者a2 がフォルダを次のワークポイントWP3へ送付すると、図10に示すように、フォルダ情報テーブル23 aの現在位置がワークポイントWP3に更新される。そして、更新後フォルダをワークポイントWP3の利用者へ送付する必要がある。しかし、このワークポイントWP3には、ワークポイント利用者テーブル21 aにおいて、組織「B課**担当」が割付けられているので、組織「B課**担当」へフォルダを送付する。

【0051】ワークフローサーバ16 aは次に示す手順でフォルダを他のドメインの組織へ返送する。まず、図10に示すように、フォルダメモリ24 a内に、フォルダ情報テーブル23 aのフロー名称「フローA」と、送付元 (自己) のワークフローサーバ名、及び自己のワークフローサーバ16 aのネットワークアドレス、送付元「フロー1-D」、「返却トレイ」、「受付トレイ」の情報を組織送付用ファイル29 aとして組込む。

【0052】次に、部門間管理部サーバ15のワークフローサーバ登録部13から組織「B課**担当」の受付トレイを抽出し、図11に示すように、ドメイン11 bの送付先であるワークフローサーバ16 bの組織「B課**担当」の受付トレイへフォルダメモリ24 aに記憶されたフォルダ情報を返送する。よって、図11に示すように、ドメイン11 bのワークフローサーバ16 bのフォルダメモリ24 bの記憶内容は、図示するように、図10で示したドメイン11 aのワークフローサーバ16 aのフォルダメモリ24 aの記憶内容と等しくなり、送付先が終了すると、ワークフローサーバ16 aのフォルダメモリ24 aの記憶内容が消去される。

【0053】ドメイン11 bのワークフローサーバ16 bでは、受はフォルダ情報からこのドメイン11 bで実行するフローを生成する。具体的には、受信したフォルダ情報の受付トレイから組織登録部18 bに記憶されている組織のフローを特定して、この組織のフロー及びこの組織に関する情報をフロー定義テーブル21 b及びワ

ークポイント順序関係テーブル22 bへフローAの名称で設定する。また、フォルダ情報テーブル22 bに組織のフローの初期ワークポイントWP1を設定する。したがって、このフローは自己のドメイン11 bに所属するワークポイントのみで構成された通常のフローとなる。

【0054】ワークフローサーバ16 bは、フローの生成処理が終了すると、図12に示すように、フォルダメモリ24 bの組織送付用ファイル29 bに記憶した受付フォルダ情報に含まれる送付元ワークフローサーバ名、送付元「フロー1-D」、返却トレイ、受付トレイ、送付先ワークフローサーバ、送付先「フロー1-D」をワークフローサーバ間管理部14へ登録する。

【0055】ワークフローサーバ16 bは、組織「B課**担当」のフローの初期設定処理が終了すると、フロー定義テーブル20 bに設定されたこのフローに対する通常の実行処理を行う。

【0056】ワークフローサーバ16 bは、フロー定義テーブル20 bに示すように、フォルダメモリ24 bの組織と、図13に示すように、フォルダメモリ24 bの組織送付用ファイル29 bに記憶されている送付元ワークフローサーバ16 aの情報から、送付元のワークフローサーバ名と受付トレイを取得する。そして、フォルダメモリ24 bのフォルダ情報をドメイン11 aの送付元ワークフローサーバ16 aの受付トレイへ割付けする。

この場合、組織送付用ファイル29 bは送付するごとく、成果物ファイル等のフォルダの実体のみを返送する。

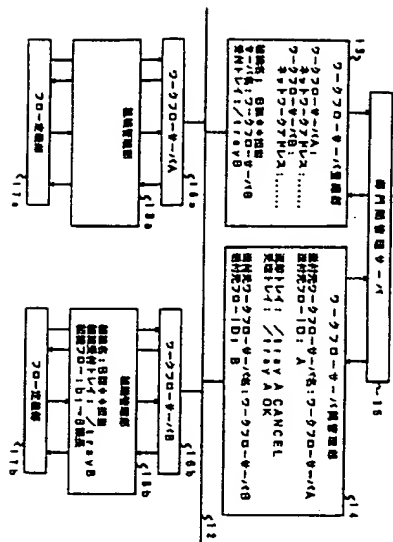
【0057】したがって、ドメイン11 aのワークフローサーバ16 aのフォルダメモリ24 aには、ドメイン11 bの組織のフロー終了後のフォルダが記憶されている。また、フォルダ情報を受領したワークフローサーバ16 aは、部門間管理部サーバ15のワークフローサーバ間管理部14の記憶情報を消去する。

【0058】そして、ワークフローサーバ16 aは、フォルダ情報テーブル23 aの現在位置を組織「B課**担当」に対応するワークポイントWP3から次のワークポイントWP4へ進める。

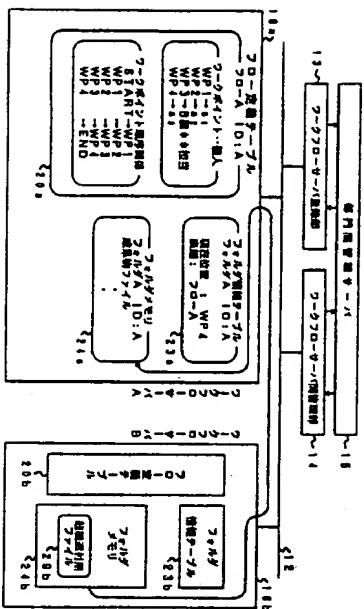
【0059】その後、フロー定義テーブル20 aのワークポイント順序関係テーブル22 aの既定順序に従って通常のフロー実行処理を開始する。したがって、ドメイン11 aのフロー定義部17 aから入力された図6に示す他のドメイン11 bの組織のフロー28を含む仕事のフロー26が正常に実行されて終了する。

【0060】なお、ドメイン11 bで実行される組織のフローの最初のワークポイントWP1において、内部に不備がある等の理由で、一つのワークポイントWP1へフォルダを返送する場合には、ワークフローサーバ11 bは、同様な処理によってフォルダを送付元のドメイン11 aのワークフローサーバ11 aへ割付け (送信) するが、その際は、ワークフローサーバ11 aにお

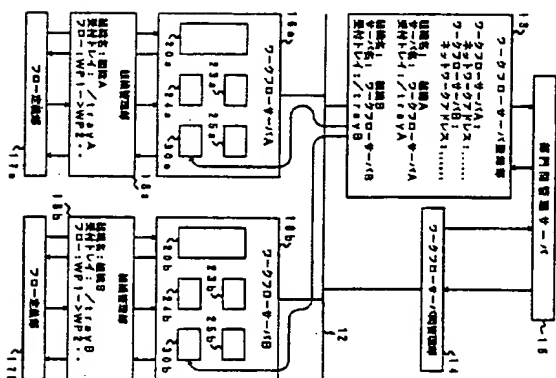
【図12】



【図13】



【図14】



【図15】

